

特別企画



佐野さんの思い出

Memories of Dr. Sano

(株) 豊田中央研究所 福島 英沖
〒4801192 愛知県長久手市横道 41-1
e-mail: h-fukushima@mosk.tytlabs.co.jp

日本電磁波エネルギー応用学会(JEMEA)の設立から監事を務められていた佐野三郎博士が、昨年 12 月 30 日にお亡くなりになりました。佐野さんとの出会いは、今から 23 年前 (1994 年) に阪大溶接研の三宅先生が設立した電磁プロセス研究会にさかのぼります。当時はマイクロ波プロセスよりも放電プラズマ焼結 (SPS) の方が勢いがあり、マイクロ波にしても 2.45GHz より 28GHz のミリ波が主流でした。そんな中、佐野さんと私はセラミックスのマイクロ波・ミリ波焼結という、共通の研究をしていました。佐野さんは岡山大学をご卒業後、大蔵省関税局、三井造船の研究所を経て名古屋工業技術研究所 (現在の産総研) に移られました。その間、大阪大学で博士号 (溶接工学専攻) を取得され、三宅先生、巻野先生らと共同研究をされていたと記憶しています。

初期においては、1997 年の阪大溶接研とウォロンゴン大学との共同国際シンポジウム (JWRI-UOW) での発表、また当時はまだマイクロ波プロセスの研究者が少なく、いろいろな学会誌、雑誌で一緒に執筆をさせていただきました。佐野さんとは国際会議で一緒することが多く、国内では MAPEES'04 (大阪)、MW2004 (高松)、2006 MW Processing (東大)、海外ではオラデア (2007 年ルーマニア)、カールスルーエ (2009 年ドイツ) などへ行き、佐野さんに海外の研究者を紹介していただき、国際交流を深めました。ある海外での国際会議で座長の方が欠席となり、急きょ佐野さんが気さくに座長の大役を引き受けていたのが、頼もしく印象に残っています。写真は欧州のマイクロ波国際会議 AMPERE でオラデアへ行ったときに撮ったものです。佐藤先生も堀越先生もまだ若々しく、懐かしい写真です。ルーマニアへは直接行くことができなかったのですが、途中パリで一泊したのですが、偶然ルーブル美術館で出会ってお互いに驚いたことが思い出されます。

佐野さんとの思い出は、何といても琵琶湖 (大津) で開催された第一回のマイクロ波世界会議 GCMEA (2008 年) です。佐藤先生の下、核融合研でプログラムや運営方法について熱心に議論を重ねました。GCMEA を成功裡に行なえたのも、佐野さんのご尽力があつてのことと思っています。また、科研費特定領域では、下呂温泉、蓼科、仙台の蔵王などで夜を通して熱く議論したのもよい思い出です。最近では、書籍 (最新マイクロ波エネルギーと応用技術) の編集委員として、第 4 章 (材料、プロセッシング) の責任者をご担当され、20 テーマ以上の編集をまとめ上げました。ここ 1, 2 年は JEMEA のシンポジウムや研究会にも参加されず、どうされているのか心配していました。一昨年の 12 月に誘電率透磁率データベース化 WG の主要メン

バーとして、メールでやり取りしたのが最後でした。思い起こせば、名古屋地区の同士として、付かず離れずいつも一緒でした。

佐野さんの最近のご研究は、材料のマイクロ波吸収性や複素誘電率の測定など、マイクロ波加熱プロセスの研究になくてはならない基礎的なデータをたくさんご提供してくれました。また佐野さんは学識が高く知識も豊富で、JEMEA 理事会などで皆さんが迷っているときに、いろいろな助言をしていただきました。年齢的に同年代ということもあり、ご息子の大学合格をととても喜んでいたのが思い出されます。最後に、佐野さんの葬儀で喪主をお勤めになった奥様のご挨拶の一部を紹介させていただきます。

「曲がったことが嫌いで、やると決めたら最後までやり遂げる... 夫はそういう人でした。病気とうまく付き合いながら春までは仕事をし、体調を崩して入院しても夫は前向きで、治して復帰するつもりでおりました。庭に植えたラズベリーやユスラウメなどでジャムを作って人にあげるのが好きでした。(中略)

夫 佐野三郎は、沢山の思い出を残し、平成二十八年十二月三十日、満六十歳にてその生涯に幕をおろしました。今まで夫を支えてくださったすべての皆様へ心より感謝申し上げます。」

納得するまで研究を突き詰める姿勢は、いかにも佐野さんらしいことを奥様のご挨拶から改めて感じたいです。

ご冥福をお祈りします。



左から、福島、佐野、佐藤、松原、堀越（敬称略）オラデアにて（2007年ルーマニア）